

胆道がん・膵臓がん向けの新規診断法の研究を進めるため 皆様のご寄付をよせていただけませんか？

赤く光るがんを糸口に。 胆膵がんの早期発見へ

ご寄付のお申し込みは下の二次元コードから
アクセスいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。



<https://readyfor.jp/projects/116684>

光線力学的診断 クラウドファンディング

インターネット上での手続きが難しい場合は、
鳥取大学医学部附属病院 第二内科診療科群まで直接ご連絡ください。

E-MAIL: ikebu@tottori-u.ac.jp TEL: 0859-38-6527

鳥取大学医学部附属病院
消化器・腎臓内科学分野
教授 磯本 一



皆様のご寄付が、難治がんで苦しむ人を減らす未来につながる可能性があります。

胆道がん、膵臓がんに対する 光線力学的診断の臨床試験へ。

胆管・胆嚢がんの危険因子について研究が進められていますが、まだまだ明確な原因がわかっていないために予防などが難しいのが現状です。これらの病気で亡くなる方を減らしていくためには「早期発見」と「適切な診断」の2つのカギを高めていく必要があります。そして胆道がん、膵臓がん検査の精度を飛躍的に向上させるためには、がんを小さい段階でも確実に診断する診断法の確立に向けた臨床試験の実施等、様々な検証を重ねる必要があります。

本クラウドファンディングは、そのために必要な試薬品を購入することを目標にしております。本研究は将来、胆道がん、膵臓がんに関心の方々に、きっと貢献できるものと信じています。皆さまのご寄付・応援をどうぞよろしくお願いいたします。

胆道がん、膵臓がんを取り巻く課題

膵臓がん

がんの死亡数において
男性で4位 (19,344人)
女性で3位 (19,247人)

8.5%

(男性8.9%・女性8.1%)
全がんのうち最も低率

胆道がん (胆管がん・胆のうがん)

がんの死亡数において
男性で7位 (9,615人)
女性で6位 (8,557人)

24.5%

(男性26.8%・女性22.1%)
膵臓がんに次ぐ低率

参照:国立研究開発法人 国立がん研究センター がん情報 (2021年)

日本人の死因第一位は40年近く悪性新生物(がん)であり、今日まで増加し続けています。2021年国立がん研究センターがん情報サービスによると、膵臓がん、胆道がん(胆管がん・胆嚢がん)は、男性、女性ともに死亡数が多く、5年相対生存率は全がんのうちでも特に低くなっています。

さまざまな研究が進められていますが、多くの胆管・胆嚢がんの予防対策は現在もお困りです。膵臓がんも同様であり、可能な限り早く診断する努力が重ねられています。

今回の研究内容

本プロジェクトでは、胆道がん、膵臓がんの検査の精度を飛躍的に向上させ、がんを小さい段階でも確実に診断する診断法の確立に向けた臨床試験の実施を目標としています。

膵臓がんに対しては超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)、胆管・胆嚢がんに対しては胆管生検・胆汁細胞診・胆道鏡下生検を用いて、がん細胞を採取します。鳥取大学では、各検査で採取されたがん細胞を、確実にかつ迅速に確認できるように研究を行っています。

01. 光線力学的診断

光線力学的診断を行うためには、5-ALAという薬剤を使います。5-ALAはアミノ酸の一種で、生体内で代謝されると、光感受性物質であるプロトポルフィリンⅨ区となります。このプロトポルフィリンⅨ区はがん腫瘍細胞に特異的に集積するため、光線力学的診断はがん組織を光で区別して発見する技術です。この5-ALA製剤は脳腫瘍や膀胱がんの診断において、すでに臨床応用されています。

02. 合成セクレチン × MRI/膵液

膵液細胞診では合成セクレチンという薬剤を使います。セクレチンは消化ホルモンの一種で、日常では食べ物に反応して主に小腸粘膜より分泌されています。膵臓に作用し、消化酵素を含む膵液の分泌を促進します。内視鏡検査は絶食で行いますが、この合成セクレチンを注射することで、食事をとっているときのように膵液が多く分泌されるようになります。膵液を多く回収することで、より確実に膵臓がんを診断することができるのではないかと考えています。

この合成セクレチンを用いた研究は2012年から当院で行っており、細胞診においてすでに良好な成績となっていますが、さらに精度を高めるために旭川医科大学と共同研究を行い、DNAやRNAなどからも診断にアプローチします。

次は、実際の患者さんのご協力を得ながら臨床試験を行う段階にあります(鳥取大学医学部附属病院臨床研究審査委員会に

目標金額

1,500万円

【寄付募集期間 2023年7月30日(日)まで】

※本プロジェクトはAll or nothing方式のため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。

※本プロジェクトへの寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。



鳥取大学医学部附属病院
消化器・腎臓内科学分野

教授 磯本 一
HAJIME ISOMOTO

より承認済み)。消化管腫瘍の分野では、PDDは進行胃癌の腹膜播種病変の検出率の向上に、その有用性が明らかになりつつありますが、胆道がん、膵臓がんの分野では確立していません。

さらに、セクレチンは現時点では国内調達ができず、海外からの輸入により確保する必要があります。薬剤の調達に大きな資金を必要としており、本クラウドファンディングで皆様にご協力いただき、その薬剤の購入をいち早く推し進めたいと思います。

皆様のご寄付によって薬剤の購入を進め、胆道がん、膵臓がんにおける5-ALAを用いた光線力学的診断の有効性及び安全性についての検討を行わせていただけないでしょうか?ご寄付にご賛同のほど何卒よろしくお願いいたします。

今後のステップ

今回の研究は「5-ALA」「合成セクレチン」という二つの薬を組み合わせ、これまでになかった新しい手法として、検査に診断薬を用いることで改善を目指せると考えています。光線力学的診断の有効性及び安全性についての検討を行い、有用性及び安全性が示されれば、確実に診断に結び付け、適切な治療方針を提案することが期待できます。